

畜産振興課

【主な所掌事務】

| (調整・畜政・経済チーム) | (生産振興チーム) | (家畜衛生チーム) |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・秋田牛ブランドの推進・比内地鶏の振興・認証制度・養豚振興・畜産クラスター事業・畜産物の輸出促進・畜産経営安定対策・畜産関係制度資金 | <ul style="list-style-type: none">・肉用牛・酪農の生産振興・大規模肉用牛団地の支援・家畜の改良・増殖、種雄牛造成・畜産公共事業・耕畜連携の促進・飼料作物の増産・養蜂振興・家畜排せつ物対策 | <ul style="list-style-type: none">・家畜衛生・家畜伝染病予防・獣医事・薬事・獣医師職員確保対策 |

| | | | | | |
|------|---|------|---------------------------------|---------|------------|
| 事業名 | 畜産環境総合整備事業 | | 担 当 | 生産振興チーム | |
| 事業年度 | 平成22～ | 事業主体 | 県、（公社）秋田県農業公社 | 当初予算額 | 191,698 千円 |
| 事業目的 | 総合的な畜産経営の環境整備を行い、家畜排せつ物のリサイクルシステムを構築することにより、畜産に起因する環境汚染の防止と畜産経営の合理化を促進するとともに、良質な堆肥を耕種農家等へ還元し、地域農業の持続的な発展を図る。 | | 財 源 内 訳 | 国 庫 | 178,365 千円 |
| | | | | 一 般 | 13,333 千円 |
| | | | | | |
| 実施内容 | 1 畜産環境総合整備事業 | | 191,698千円（◎178,365千円、○13,333千円） | | |
| | 将来にわたり畜産主要産地として発展が期待される地域において、総合的な畜産経営の環境整備を行い、家畜排せつ物のリサイクルシステムを構築することにより畜産に起因する環境汚染の防止と畜産経営の合理化を促進し、併せて、家畜排せつ物のリサイクルにより生産された良質な堆肥を耕種農家へ還元し、地域農業の持続的な発展を図る。 | | | | |
| | (1) 実施地区 由利本荘2期地区（由利本荘市）、湯沢地区（湯沢市）、羽後3期地区（羽後町）、羽後4期地区（羽後町） | | | | |
| | (2) 実施期間 由利本荘2期地区：令和5～9年度、湯沢地区：令和7～10年度 羽後3期地区：令和7～10年度、羽後4期地区：令和8～11年度 | | | | |
| | (3) 事業内容 | | | | |
| | ①由利本荘2期地区（ストックマネジメント） | | | | |
| | ア 堆肥処理施設、浄化処理施設（改修工事） | | | | |
| | イ 事業主体事務費（（公社）秋田県農業公社） | | | | |
| | ウ 県事務費 | | | | |
| | ②湯沢地区（ストックマネジメント） | | | | |
| | ア 堆肥処理施設（改修工事）、測量設計費 | | | | |
| | イ 事業主体事務費（（公社）秋田県農業公社） | | | | |
| | ウ 県事務費 | | | | |
| | ③羽後3期地区（ストックマネジメント） | | | | |
| | ア 浄化処理施設（改修工事） | | | | |
| | イ 事業主体事務費（（公社）秋田県農業公社） | | | | |
| | ウ 県事務費 | | | | |
| | ④羽後4期地区（機能強化） | | | | |
| | ア 敷地造成工事、測量設計費 | | | | |
| | イ 事業主体事務費（（公社）秋田県農業公社） | | | | |
| | ウ 県事務費 | | | | |
| | (4) 補助率 | | | | |
| | ①事業費 国50%以内 | | | | |
| | ②事業主体事務費 県10/10以内 | | | | |

| | | | | |
|------|---|------|-----------|-------------|
| 事業名 | 畜産制度資金融通助成事業 | | 担 当 | 調整・畜政・経済チーム |
| 事業年度 | 昭和63～令和33 | 事業主体 | 融資機関（農協）等 | 当初予算額 |
| | | | | 96 千円 |
| 事業目的 | 畜産農家に制度資金を融通した融資機関に対して、利子補給金を交付し農家負担を軽減することにより畜産農家の経営の安定を図るとともに、保証の円滑化を促進するため、代位弁済する保証機関に対し、助成を行う。 | | 財 源 | 一 般 |
| | | | 内 訳 | |
| 実施内容 | <p>1 特別支援資金利子補給事業</p> <p>(1) 畜産経営維持緊急支援資金</p> <p>①対象となる貸付 平成21～22年度分（利子補給期限：令和16～17年度）</p> <p>②貸付条件 償還期間15～25年（うち据置期間3～5年）、利子補給率0.06%</p> <p>③利子補給見込額 34,708円（県 → 融資機関）</p> <p>④利子補給対象金融機関数 4 J A</p> <p>(2) 畜産経営改善緊急支援資金</p> <p>①対象となる貸付 平成27年度分（利子補給期限：令和23年度）</p> <p>②貸付条件 償還期間25年（据置期間なし）、利子補給率0.06%</p> <p>③利子補給見込額 17,280円（県 → 融資機関）</p> <p>④利子補給対象金融機関数 1 J A</p> <p>(3) 酪農・肉用牛担い手緊急支援資金</p> <p>①対象となる貸付 令和7年度分（利子補給期限：令和32年度）</p> <p>②貸付条件 償還期間25年（据置期間5年）、利子補給率0.06%</p> <p>③利子補給見込額 4,231円（県 → 融資機関）</p> <p>④利子補給対象金融機関数 1 J A</p> <p>(4) 大家畜・養豚特別支援資金</p> <p>①貸付実行期間 令和8年度</p> <p>②貸付条件 償還期間15～25年（うち据置期間3～5年）、利子補給率0.06%</p> <p>③利子補給見込額 5,000円（県 → 融資機関） （令和8年新規貸付分1億円に対する利子補給見込額=100,000千円×0.06%×1/12月=5,000円）</p> <p>④利子補給見込額 17,500円（県 → 融資機関） （令和8年新規貸付分5千万円に対する利子補給見込額=50,000千円×0.06%×7/12月=17,500円）</p> <p>※債務負担行為の設定 融資元本1億5千万円に対する利子補給金 1,245千円（令和9～33年度）</p> | | | 79千円（◎79千円） |
| | 2 県事務費（指導事務費） | | | 17千円（◎17千円） |

| | | | | | | | |
|--|---|------|-------------------|---|-----------------------------------|--------|----------|
| 事業名 | 畜産経営改善指導事業 | | | 担当 | 調整・畜政・経済チーム 生産振興チーム 家畜衛生チーム | | |
| 事業年度 | 平成20～ | 事業主体 | 県 | 当初予算額 | 16,578 千円 | | |
| 事業目的 | 畜産農家の経営改善を図るとともに、畜産振興に関する諸指導事業を推進する。 | | | 財 | 使用料 | 530 千円 | |
| | | | | 源内訳 | 財 | 産 | 1,464 千円 |
| | | | | | 諸 | 収入 | 8,307 千円 |
| | | | | | 一 | 般 | 6,277 千円 |
| 実施内容 | 1 畜産振興諸指導事業 | | | 12,164千円（㊦530千円、㊦1,464千円、㊦8,307千円、㊦1,863千円） | | | |
| | 畜産振興に係る諸指導事業等に要する経費 <歳入内訳> | | | | | | |
| | (1) 使用料・手数料 ①家畜商免許等手数料1件 ②みつばち転飼許可手数料226カ所 ③家畜市場登録証書換手数料1件、ふ化業者登録手数料1件 (2) 財産収入 ①土地貸付収入（旧固形粗飼料生産利用試験用地、旧ぶな森牧場用地） (3) 諸収入 ①受託事業収入 ア 畜産業振興事業補助業務委託 イ 加工原料乳生産者補給金交付業務委託費 ウ 肉用子牛生産者補給金等事務委託費 エ 畜産振興補助事業補助業務委託費 オ 畜環リース事業推進業務委託費 カ 種畜検査受託事業収入 ②雑入 ア 雇用保険料個人負担分 イ 大潟村土地改良区負担金 | | | | | | |
| 2 自給飼料対策指導事業 | | | 451千円（㊦451千円） | | | | |
| (1) 地域に適した草種・品種の選定のための調査、奨励品種の展示ほ等を使った技術指導等を実施 | | | | | | | |
| (2) 飼料安全法に基づいた立入調査・巡回指導及び流通飼料の検査を実施 | | | | | | | |
| 3 畜産経営改善促進事業 | | | 3,963千円（㊦3,963千円） | | | | |
| 畜産農家の経営体質の強化を図るため、経営感覚に優れた効率的で生産性の高い経営体の育成を推進する。 | | | | | | | |
| (1) 実践支援チームの組織化と畜産経営に対する支援指導の実施 | | | | | | | |
| ①実践支援チーム設置委員会の開催 | | | | | | | |
| ②個別経営体診断指導や相談窓口の設置等 | | | | | | | |
| (2) 畜産関係情報のデータベース化と情報提供体制の整備 | | | | | | | |
| ①インターネットなどを活用した各種情報体制の整備 | | | | | | | |
| ②畜産経営と技術情報等のデータベース化 | | | | | | | |
| (3) 委託先 （公社）秋田県農業公社 | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|-----------------------------|-----------------------------|-------------|----------|
| 事業名 | 比内地鶏生産販売強化事業 | | 担 当 | 調整・畜政・経済チーム | |
| 事業年度 | 平成20～令和10 | 事業主体 | 県 | | |
| | | | 当初予算額 | 7,451 千円 | |
| 事業目的 | 比内地鶏のトップブランドとしての地位確立のため、ブランド認証制度を適切に運用すると共に、生産性向上と産地の振興に向けた取組を進める。併せて、長期的な生産体制の維持・拡大と生産コストの低減を図るため、初生雛の新たな性判別法確立に向けた取組を行う。 | | 財源内訳 | 国庫 | 1,125 千円 |
| | | | | 財産 | 1,077 千円 |
| | | | | 一般 | 5,249 千円 |
| | | | | | |
| 実施内容 | 1 比内地鶏ブランド強化推進事業 | | 978千円 (⊖978千円) | | |
| | 比内地鶏ブランドに対する消費者等の信頼に応え、ブランドの優位性を維持するために立入検査やDNA識別検査等を行い、「秋田県比内地鶏ブランド認証制度」を適切に運用する。 | | | | |
| | (1) 認証制度推進事務 | | | | |
| | ①申請受付、現地調査、認証票交付等 | | | | |
| | ②自己点検としてDNA識別の実施 | | | | |
| | 県内認証施設、東京等の店頭からのサンプリング：60検体 | | | | |
| | (2) ブランド認証推進委員会の運営、協議会の活動推進 | | | | |
| | 総会及び研修会の開催 | | | | |
| | 2 羽性鑑別基礎種鶏群作出事業 | | 3,186千円 (⊕1,077千円、⊖2,109千円) | | |
| | 比内地鶏の長期的な生産体制の維持・拡大と生産コストの低減に向けて、初生ひなの性別を羽根の長短により簡易に判別できる素雛を生産するため、種鶏を改良する。 | | | | |
| (1) 基礎種鶏群作出のための遺伝子解析等 | | | | | |
| 種鶏群が有する羽根の発育性に関与する遺伝子解析等 | | | | | |
| (2) 基礎種鶏群の飼養管理 | | | | | |
| 飼育に要する飼料費等 | | | | | |
| 3 比内地鶏産地振興対策強化事業 | | 3,287千円 (⊕1,125千円、⊖2,162千円) | | | |
| マーケティング調査結果等を踏まえ、今後も継続的に産地が発展していくため、生産から流通販売に係る対策を強化する。 | | | | | |
| (1) 暑熱対策への指導強化 | | | | | |
| ①遮光資材の活用や屋根散水・送風などによる対策の実証（5か所） | | | | | |
| ②暑熱対策事例集の作成 | | | | | |
| (2) 販売流通対策支援 | | | | | |
| ①対象者 県内比内地鶏販売事業者等 | | | | | |
| ②助成対象 新商品開発等に要する経費（消費・賞味期限延長、オス肉活用、パイヤー招聘、新商品開発） | | | | | |
| ③補助率 1／2以内 | | | | | |

| | | | | | | |
|---|--|--------------------|----------------------|---------|----------|----------|
| 事業名 | 秋田県獣医師職員確保対策事業 | | 担当 | 家畜衛生チーム | | |
| 事業年度 | 平成22～ | 事業主体 | 県、中央畜産会、秋田県農業共済組合等 | 当初予算額 | 23,664千円 | |
| 事業目的 | 本県の獣医師職員が不足しているため、県内の高校生や獣医学生等に対し、本県への就職を条件とした修学資金を給付し、職員を確保する。また、県内における産業動物獣医療業務の効率化を図り、獣医療体制を強化する。 | | | 財源 | 一般 | 23,664千円 |
| | | | | 財源 | | |
| | | | | 財源 | | |
| | | | | 財源 | | |
| 実施内容 | 1 地域枠産業動物獣医師養成確保事業 | | 10,468千円 (⊖10,468千円) | | | |
| | <p>県の選考試験で選抜した高校3年生に対し、獣医大学の地域枠推薦入学試験に係る知事の推薦を与えるとともに、その大学合格者に対し、大学卒業後に産業動物獣医師として本県農林水産部へ一定期間勤務することを条件に、入学金及び修学資金を給付する。</p> <p>(1) 「地域枠産業動物獣医師修学資金」負担金</p> <p>(公社)中央畜産会が「獣医師養成確保修学資金給付事業」を活用し、獣医大学の地域枠推薦入学試験に合格した高校3年生に対し、入学金等(上限1,750千円)を給付する。また、大学在学中の6年間を通じて修学資金(上限月額180千円)を給付する。</p> <p>県は、本事業の周知募集、地域枠推薦者選考試験の実施及び事業実施主体に対する負担金を負う。負担率は、事業実施主体と県が1/2ずつ。</p> <p>①事業実施主体 (公社)中央畜産会</p> <p>②入学金等 高校生2名(新規)</p> <p>③修学資金 大学生8名(継続)</p> <p>(2) 高校生に対する産業動物獣医師のPR等</p> <p>県内の高校生に対し農林水産部の獣医師職員の業務や修学資金制度についてPRし活用を推進する。</p> | | | | | |
| | 2 獣医師修学資金給付事業 | | 11,692千円 (⊖11,692千円) | | | |
| <p>獣医学科に在学中の大学生に対し、大学卒業後に獣医師として本県に一定期間勤務することを条件に修学資金を貸与する。</p> <p>(1) 「産業動物獣医師修学資金」補助金</p> <p>秋田県農業共済組合が「産業動物獣医師修学資金給付事業」を活用し、産業動物獣医師として本県農林水産部又は秋田県農業共済組合への勤務を希望する大学生に対し、修学資金(上限月額180千円)を給付する。</p> <p>県は、本事業の周知募集及び事業実施主体に対する補助金の支払いを行う。県の補助金割合は1/2、本県への勤務を希望する大学生に対する給付の場合に補助する。</p> <p>①事業実施主体 秋田県農業共済組合</p> <p>②修学資金(12か月×新規2名)</p> <p>(2) 「秋田県獣医学生修学資金」貸与</p> <p>「秋田県獣医学生修学資金貸与条例」により、大学卒業後に獣医師として本県生活環境部又は農林水産部に勤務することを条件として、大学生に対し、修学資金(上限月額180千円)を貸与する。</p> <p>①事業実施主体 県</p> <p>②修学資金 継続1名×12か月+新規3名</p> <p>(3) 県単独地域枠修学資金制度</p> <p>「秋田県獣医学生修学資金貸与条例」により、県の選考試験で選抜した高校3年生に対し、獣医大学の地域枠推薦入学試験に係る知事の推薦を与えるとともに、その大学合格者に対し、大学卒業後に獣医師として本県に一定期間勤務することを条件に、入学金等(上限875千円)を貸与する。また、大学在学中の6年間を通じて修学資金(上限月額180千円)を貸与する。入学金等は、大学入学後の最初の修学資金と同時に貸与する。</p> <p>①事業実施主体 県</p> <p>②推薦枠 1名(令和7年度選考試験による令和8年度大学入学者が対象)</p> <p>③修学資金、入学金等 1名(令和7年度の県選考試験に申込なく、令和8年度は利用者なし)</p> | | | | | | |
| 3 受験者確保対策事業 | | 1,504千円 (⊖1,504千円) | | | | |
| <p>獣医大学の学生等に対し獣医師職員の業務の意義や魅力を多方面からPRし、本県への就職を誘引する。</p> <p>(1) インターンシップ参加支援(職場実習受入)</p> <p>(2) 獣医大学への事業PR、学生のフォローアップ</p> <p>(3) 採用試験の実施</p> <p>(4) 高校生向け体験研修(農林水産部2回・生活環境部1回)</p> <p>(5) 小・中学生向け出前講座</p> | | | | | | |

| | | | | |
|------|---|------|---------|--------------------|
| 事業名 | 肉用牛肥育経営維持拡大対策事業 | | 担 当 | 生産振興チーム |
| 事業年度 | 平成26～令和10 | 事業主体 | 農業協同組合等 | 当初予算額 5,568 千円 |
| 事業目的 | 子牛価格や配合飼料価格の高騰による肥育農家の負担軽減を図るため、JA等が行う肥育牛預託の無利子化等への取組に対し支援する。 | | 財 源 | 一 般 5,568 千円 |
| | | | 内 | |
| | | | 訳 | |
| | | | | |
| 実施内容 | 1 肉用牛肥育経営維持拡大対策事業 (1) 事業主体 7農協等 (JAかづの、JA秋田しんせい、JA秋田おぼこ、JA秋田ふるさと、JAこまち、県畜協、県家畜商協) (2) 利子補給率 1/2以内 (3) 補給対象及び補給額 ①令和8年度補助金交付・・・預託牛の販売等により預託代金の精算で確定した利子補給額 ア 令和6年度預託開始、令和8年度精算分(利率1.7%を補助上限とする) $340頭 \times 600千円 \times 1.7\% \times 20 / 12月 \times 1 / 2 = 2,890千円$ イ 令和7年度預託開始、令和8年度精算分(利率1.7%を補助上限とする) $270頭 \times 700千円 \times 1.7\% \times 20 / 12月 \times 1 / 2 = 2,678千円$ 【債務負担行為の設定】 ・令和8年度預託開始、令和9年度精算分(利率2.0%を補助上限とする) $330頭 \times 900千円 \times 2.0\% \times 20 / 12月 \times 1 / 2 = 4,950千円$ (令和9年度事業費) ・令和8年度預託開始、令和10年度精算分(利率2.0%を補助上限とする) $470頭 \times 900千円 \times 2.0\% \times 20 / 12月 \times 1 / 2 = 7,050千円$ (令和10年度事業費) 計 12,000千円 ②発動要件 四半期ごとに発動を判断。当該四半期の直近12か月の平均子牛価格が発動基準を上回った場合、又は当該四半期の前四半期における配合飼料の工場渡価格が発動基準を上回った場合に発動。 [発動基準] 子牛価格 520千円 価格高騰前(平成25年度)の平均価格 配合飼料価格 62円/kg 価格高騰前(令和2年度)の平均価格 | | | 5,568千円 (⊖5,568千円) |

| | | | | | | |
|------|---|------|--|-------|----------|----------|
| 事業名 | あきたの酪農推進対策事業 | | | 担 当 | 生産振興チーム | |
| 事業年度 | 平成30～ | 事業主体 | 県、全国農業協同組合連合会秋田県本部、 日本ホルスタイン登録協会秋田県支部 | 当初予算額 | 1,841 千円 | |
| 事業目的 | 酪農経営の体質強化と生乳生産の維持拡大を図るため、牛群検定を活用した個体管理や、乳用牛の改良推進を支援し、生乳生産基盤の強化を図る。 | | | 財 | 一 般 | 1,841 千円 |
| | | | | 源 | | |
| | | | | 内 | | |
| | | | | 訳 | | |
| 実施内容 | <p>1 酪農生産性向上対策事業 1,841千円 (○1,841千円)</p> <p>生乳の生産量や乳質、飼養管理技術の向上を図るため、牛群検定の取組を支援するとともに、牛群検定情報の分析やデータの活用を促進し、牛群の改良を推進する。</p> <p>(1) 牛群検定推進事業</p> <p>①補助先 全国農業協同組合連合会秋田県本部</p> <p>②補助対象 牛群検定の推進に要する経費</p> <p>③補助率 1/3以内</p> <p>(2) 酪農生産性向上支援事業業務委託</p> <p>①委託先 日本ホルスタイン登録協会秋田県支部</p> <p>②委託内容 牛群検定情報の分析、普及指導員等への情報提供</p> | | | | | |

| | | | | | | |
|------|---|------|------------|-------|-------------|--------|
| 事業名 | 畜産競争力強化対策事業 | | | 担 当 | 調整・畜政・経済チーム | |
| 事業年度 | 平成28～令和33 | 事業主体 | 県、金融機関、協議会 | 当初予算額 | 481 千円 | |
| 事業目的 | 国の畜産競争力強化対策に基づいて、畜産クラスター協議会が策定した「畜産クラスター計画」に位置づけられた中心的な畜産経営体の収益性の向上に必要な施設整備を支援する。 | | | 財 | 国 庫 | 0 千円 |
| | | | | 源 | 一 般 | 481 千円 |
| | | | | 内 | | |
| | | | | 訳 | | |
| 実施内容 | <p>1 畜産経営体質強化支援資金利子補給事業 159千円 (○159千円)</p> <p>新たな投資を促進するための長期低利資金「畜産経営体質強化支援資金」の融通に必要な地元負担の利子補給について、県・市町村・融資機関の連携により対応する。</p> <p>(1) 令和8年度予算の内容</p> <p>①平成28年度融資分(補助先：こまち農業協同組合)</p> <p>ア 融資残高 38,128千円 (令和7年度末時点)</p> <p>イ 利子補給額 31千円 (38,128千円×県利子補給額0.08%=30,502円)</p> <p>②平成30年度融資分 (補助先：秋田やまもと農業協同組合)</p> <p>ア 融資残高 151,416千円 (令和7年度末時点)</p> <p>イ 利子補給額 122千円 (151,416千円×県利子補給額0.08%=121,133円)</p> <p>③令和8年度融資見込分</p> <p>ア 融資要望額 100,000千円 (令和8年11月末貸付を想定)</p> <p>イ 利子補給額 7千円 (100,000千円×県利子補給額0.08%×1/12カ月=6,667円)</p> <p>(2) 債務負担行為の設定</p> <p>融資元本1億円に対する利子補給金 1,240千円 (令和9～33年度)</p> | | | | | |
| | <p>2 事業計画策定支援事業 322千円 (○322千円)</p> <p>大規模畜産団地を整備する経営体への的確なアドバイスを行うため、現地支援会議を開催するとともに、円滑な施設整備を支援する。</p> <p>(1) 実施内容 (旅費302千円、需用費20千円)</p> <p>①現地支援会議の開催 (構成：県、市町村、JA等)</p> <p>②経営分析、経営指導等の実施</p> <p>③施設整備等の事業実施等</p> <p>(2) 対象地区 秋田地区、仙北地区、平鹿地区</p> <p>(3) 実施主体 県</p> | | | | | |

| 事業名 | 次代につなぐ秋田牛資質向上対策事業【地域活性化対策基金】 | | 担当 | 生産振興チーム | | |
|------|--|----------------------------|--------------------------------------|---------|----------|----------|
| 事業年度 | 令和5～9 | 事業主体 | 県 | 当初予算額 | 65,900千円 | |
| 事業目的 | 本県肉用牛の生産拡大とブランド力強化を推進するため、産肉能力・脂肪の質を重視した種雄牛造成や繁殖雌牛の保留推進による遺伝的改良の取組、令和9年に開催される第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた出品技術の向上及び若い担い手の確保対策を実施する。 | | | 財源 | 財産 | 11,330千円 |
| | | | | | 繰入金 | 53,920千円 |
| | | | | | 諸収入 | 650千円 |
| | | | | | | |
| 実施内容 | 1 | 種雄牛造成事業 | 17,324千円（◎17,324千円） | | | |
| | | (1) 脂肪の質を重視した種雄牛の造成 | | | | |
| | | ①産肉能力検定 | | | | |
| | | ア 種雄牛候補 3頭 | | | | |
| | | イ 現場後代検定 後代検定2セット、調整交配2セット | | | | |
| | | ウ 育種価解析 | | | | |
| | | ②オレイン酸及び粗脂肪等測定 | | | | |
| | | (2) 新技術による効率的な種雄牛造成 | | | | |
| | | ①ゲノム育種価の活用 遺伝子解析 48頭 | | | | |
| | | ②種雄牛候補の効率的生産 性判別精液 160本 | | | | |
| | 2 | 高能力繁殖雌牛増産対策事業 | 36,997千円（◎11,330千円、◎25,017千円、◎650千円） | | | |
| | (1) ゲノム育種価を活用した高能力雌子牛の早期発掘 | | | | | |
| | ゲノム育種価解析 96頭 | | | | | |
| | (2) ふくはな5系受精卵の安定供給 | | | | | |
| | ①受精卵の採卵・移植の推進 受精卵 160個 | | | | | |
| | ②県有牛飼養管理委託 37頭 | | | | | |
| | 3 | 全共出品技術強化事業 | 8,832千円（◎8,832千円） | | | |
| | (1) 種牛の部出品技術強化の取組 | | | | | |
| | ①調教・飼養管理技術講習会の開催 | | | | | |
| | ②全共用若雄・若雌の作出と保留推進 | | | | | |
| | ア 優良繁殖雌牛配置推進奨励 10頭 | | | | | |
| | イ 全共1区出品候補牛導入 1頭 | | | | | |
| | (2) 肉牛の部出品技術強化の取組 | | | | | |
| | ①全共用優良肥育素牛の配置・肥育の推進 | | | | | |
| | ア 優良去勢肥育牛配置推進奨励 35頭 | | | | | |
| | イ 出品候補牛巡回調査 | | | | | |
| | ②出品時の最適な輸送方法の検証 | | | | | |
| | 現場後代検定合同調査会への肥育牛輸送 3頭 | | | | | |
| | 4 | 若い担い手裾野拡大対策事業 | 2,747千円（◎2,747千円） | | | |
| | (1) 若い担い手への重点指導による早期経営安定 | | | | | |
| | 繁殖及び衛生管理技術向上の支援 | | | | | |
| | (2) 「あきた牛飼い塾」開催等による若い担い手及び畜産女性のスキルアップ | | | | | |
| | 若い担い手等の経営管理指導 | | | | | |
| | (3) 全共特別区（高校生）への出品に向けた取組の推進 | | | | | |
| | 全共出品プロジェクトチーム活動への支援 | | | | | |

| | | | | | | |
|------|--|------|-----------------|-------|---------|---------|
| 事業名 | 耕畜連携体制確立対策事業 | | | 担当 | 生産振興チーム | |
| 事業年度 | 令和5～9 | 事業主体 | 耕種農家と畜産農家の集団等、県 | 当初予算額 | 8,505千円 | |
| 事業目的 | 円安やウクライナ情勢等の影響により、肥料や飼料価格が高止まりしていることから、水田を主体とした循環農業を推進し、農作物の生産性向上や自給飼料増産の取組を支援する。 | | | 財源 | 一般 | 8,505千円 |
| | | | | 内 | | |
| | | | | 源 | | |
| | | | | 内 | | |
| 実施内容 | <p>1 新たな県産飼料資源確保実証事業 8,505千円（○8,505千円）</p> <p>飼料価格の高騰を踏まえ、水田を活用した自給可能な新たな濃厚飼料の生産や利用に係る実証展示を通じ、県内農家への普及を図る。</p> <p>(1) 事業内容 イアコーンサイレージ及び大豆WC Sの栽培実証、現地栽培展示、給与実証</p> <p>(2) 事業主体 県（畜産試験場）</p> | | | | | |

| | | | | | | |
|------|--|------|-------------------|-------|-------------|---------|
| 事業名 | 秋田牛ブランド新規需要拡大事業 | | | 担当 | 調整・畜政・経済チーム | |
| 事業年度 | 令和8～11 | 事業主体 | 県、ブランド推進協議会、民間事業者 | 当初予算額 | 9,366千円 | |
| 事業目的 | 生産者の所得向上と地域経済の活性化を図るため、「秋田牛」の県内外における販売力の向上と新たな需要拡大に取り組む | | | 財源 | 一般 | 9,366千円 |
| | | | | 内 | | |
| | | | | 源 | | |
| | | | | 内 | | |
| 実施内容 | <p>1 秋田牛販売力強化事業 5,290千円（○5,290千円）</p> <p>県内外において秋田牛の販売力強化を図るとともに、品質向上によるブランド力の向上に取り組む。</p> <p>(1) 首都圏等県外における販売力向上 バイヤー等を対象とした産地招聘、トップセールス、量販店におけるキャンペーンの実施</p> <p>(2) 品質向上によるブランド力の向上 ①秋田牛枝肉共励会の開催（年2回：夏季、冬季） ②肉用牛情報（秋田牛便り）の発信</p> | | | | | |
| | <p>2 秋田牛認知度向上事業 4,076千円（○4,076千円）</p> <p>県内事業者等が実施する輸出拡大を視野に入れた新規需要拡大に向けた取組や、イベント、学校給食での理解醸成により秋田牛の認知度向上を図る。</p> <p>(1) 秋田牛インバウンド等需要拡大支援事業 県外観光客やインバウンドを対象に県内事業者が実施する輸出拡大を視野に入れた新規需要拡大への取組等に対し支援 ①事業主体 県内宿泊事業者、飲食事業者 ②補助率 1/2以内</p> <p>(2) 県産農産物理解醸成イベントにおける秋田牛の魅力発信 ①イベントにおける秋田牛の魅力発信、試食提供 ②学校給食への秋田牛提供と出前講座開催に係る経費助成</p> <p>(3) 秋田牛の認知度向上に向けた販促資材作成 認知度向上を図るためのポスター、動画の作成</p> | | | | | |

| | | | | | |
|------|---|------|----------------------|---------|------------|
| 事業名 | 稼ぐ畜産経営体ステップアップ応援事業 | | 担当 | 生産振興チーム | |
| 事業年度 | 令和8～11 | 事業主体 | 認定農業者、認定就農者等 | 当初予算額 | 108,331 千円 |
| 事業目的 | 持続的な生産基盤を確立し、収益力を向上させるため、意欲ある畜産経営体の規模拡大と経営体質強化に必要な機械・施設等の整備や家畜の導入を支援する。 | | 財源 | 国庫 | 108,331 千円 |
| | | | 内 | | |
| | | | 訳 | | |
| | | | | | |
| 実施内容 | 1 畜産経営基盤強化支援事業 | | 73,571千円 (◎73,571千円) | | |
| | 新規就農者の経営開始や意欲ある畜産経営体の規模拡大及び生産性向上の取組を支援する。 | | | | |
| | (1) 実施内容 | | | | |
| | ①新規就農者経営開始支援 | | | | |
| | ア 施設整備 | | | | |
| | イ 機械・資材導入 | | | | |
| | ウ 素畜導入 | | | | |
| | エ その他 | | | | |
| | ②中小規模経営体等生産拡大支援 | | | | |
| | ア スマート農業機械導入 | | | | |
| | イ 暑熱対策機器、資材導入 | | | | |
| | ウ 省コスト・省エネ化機械導入 | | | | |
| | エ 畜舎整備 (肉用牛、比内地鶏) | | | | |
| | オ 肉用繁殖牛増頭 | | | | |
| | カ 肥育素牛導入 | | | | |
| | キ 乳用初妊牛導入 | | | | |
| | (2) 実施主体 | | | | |
| | ① 認定就農者、経営開始直後の中年層 (50～59歳) の認定農業者 | | | | |
| | ② 認定農業者又は畜産クラスター計画の中心的経営体 | | | | |
| | (3) 補助率 | | | | |
| | 肉用繁殖牛増頭及び乳用初妊牛導入は定額 | | | | |
| | ① 農家出身者は1/3以内、非農家出身者は1/2以内 | | | | |
| | ②ア～エ 1/3以内 | | | | |
| | ②カ 導入資金の利子相当額の1/2以内 | | | | |
| | 2 飼料増産・耕畜連携拡大支援事業 | | 34,760千円 (◎34,760千円) | | |
| | 自給飼料の生産・利用拡大の取組や、耕種農家と畜産農家の連携による堆肥の利活用の取組を支援する。 | | | | |
| | (1) 実施内容 | | | | |
| | ①自給飼料増産 | | | | |
| | ア 自給飼料生産・利用機械導入 | | | | |
| | イ 草地整備改良 | | | | |
| | ウ 飼料用とうもろこし生産拡大 | | | | |
| | エ 稲わら等保管庫整備 | | | | |
| | ②耕畜連携推進 | | | | |
| | ア 堆肥散布用機械導入 | | | | |
| | イ 堆肥関連施設整備 | | | | |
| | (2) 実施主体 | | | | |
| | ①ア、エ 認定農業者又は機械共同利用集団 | | | | |
| | ①イ、ウ 認定農業者又は畜産クラスター計画の中心的経営体 | | | | |
| | ② 堆肥共同利用集団 | | | | |
| | (3) 補助率 | | | | |
| | 1/3以内 | | | | |

| 事業名 | 草地畜産基盤整備事業 | | | 担当 | 生産振興チーム | |
|------|--|------|---|-------|---------|---------|
| 事業年度 | 平成22～ | 事業主体 | 県 | 当初予算額 | 4,000千円 | |
| 事業目的 | 中山間地域等において、林地、野草地及び草地等の農用地を畜産的土地利用体系に再編整備し、草地造成改良や牛舎等の整備を行うことにより飼料自給率の向上と経営の拡大を図る。 | | | 財源内訳 | 国庫 | 2,000千円 |
| | | | | | 一般 | 2,000千円 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 実施内容 | <p>1 事業実施計画策定事業 4,000千円（◎2,000千円、○2,000千円）</p> <p>令和9年度から実施を計画している北秋田3期地区での草地整備に向けて、事業実施計画の策定等を実施する。</p> <p>(1) 策定地区 北秋田3期地区</p> <p>(2) 策定主体 県</p> <p>(3) 策定内容 草地整備改良等の整備計画</p> <p>(4) 事業費 4,000千円（うち委託費：農業公社3,400千円）</p> <p>(5) 補助率 国1/2、県1/2</p> <p>(6) 事業計画</p> <p>①事業実施年度 令和9～12年度</p> <p>②事業実施地区 北秋田市、藤里町</p> <p>③事業内容 草地整備改良（公共牧場） 67.2ha 草地造成改良（公共牧場） 3.0ha 等</p> | | | | | |

| 事業名 | 家畜保健衛生・安全対策推進事業 | | | 担当 | 家畜衛生チーム | |
|------|--|------|---------------|-------|----------|----------|
| 事業年度 | 昭和26～ | 事業主体 | 県、（公社）秋田県農業公社 | 当初予算額 | 68,933千円 | |
| 事業目的 | 家畜伝染性疾患の発生予防・まん延防止対策、畜産環境保全対策及び獣医事・薬事監視指導を行うことにより、本県畜産の生産性の向上と安全・安心な畜産物の生産を図る。 | | | 財源内訳 | 使用料 | 4,546千円 |
| | | | | | 国庫 | 15,489千円 |
| | | | | | 財産 | 119千円 |
| | | | | | 諸収入 | 161千円 |
| | | | | | 一般 | 48,618千円 |
| 実施内容 | <p>1 家畜伝染病予防事業 21,217千円（◎4,084千円、◎13,948千円、○3,185千円）</p> <p>(1) 家畜伝染病予防法に基づく検査等を行い、家畜伝染病の発生予防及びまん延防止を図る。</p> <p>①検査対象家畜 牛、馬、羊、豚、鶏、みつばち</p> <p>②検査対象疾患 ヨーネ病、BSE、牛伝染性リンパ腫、豚熱、アフリカ豚熱、PRRS、オーエスキュー病、鳥インフルエンザ、ニューカッスル病、ふそ病等</p> <p>(2) 生産者からの依頼に基づく検査を行い、伝染性疾患の発生予防と生産性向上を図る。</p> <p>放牧衛生検査、ふそ病検査、病理解剖等</p> <p>(3) 自衛防疫強化対策事業</p> <p>家畜伝染性疾患の発生を未然に防止するため、組織的に行う予防接種に要する経費に対し助成する。</p> <p>①交付先 （公社）秋田県農業公社</p> <p>②事業内容</p> <p>ア 牛伝染性疾患発生予防 牛伝染性鼻気管炎発生予防（5,000頭）</p> <p>イ アカバネ病発生予防（6,346頭）</p> | | | | | |
| | <p>2 家畜衛生技術総合推進事業 2,981千円（◎462千円、◎1,010千円、○1,509千円）</p> <p>(1) BSE検査体制の強化</p> <p>(2) 飼養衛生管理基準等の推進、普及、啓発</p> <p>(3) 家畜衛生関連情報の収集</p> <p>(4) 精度管理体制の確立</p> <p>(5) 家畜伝染病まん延防止のための会議参加等</p> <p>(6) 薬剤耐性菌の発現状況調査</p> <p>(7) 獣医事、薬事監視指導</p> <p>(8) 畜産環境保全巡回指導</p> | | | | | |
| | <p>3 家畜保健衛生所管理運営費 44,735千円（◎531千円、◎119千円、◎161千円、○43,924千円）</p> <p>(1) 家畜保健衛生所の管理運営に要する経費</p> <p>(2) 備品購入 Web会議用PC</p> | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|------|---|--|------------|------------|
| 事業名 | CSF等緊急防疫対策事業 | | | 担当 | 家畜衛生チーム | |
| 事業年度 | 令和2～ | 事業主体 | 県 | 当初予算額 | 881,352 千円 | |
| 事業目的 | 豚熱やアフリカ豚熱等の発生予防及びまん延防止に資するため、家畜保健衛生所等における検査や豚熱ワクチン接種を円滑に推進するとともに、万一の発生に備えた初動防疫体制を整備する。 | | | 財源 | 使用料 | 50,229 千円 |
| | | | | | 国庫 | 393,702 千円 |
| | | | | | 一般 | 437,421 千円 |
| | | | | | | |
| 実施内容 | 1 検査体制整備事業 | | | 5,240千円（◎1,564千円、○3,676千円） | | |
| | 豚熱等に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づき、野生イノシシの豚熱等の検査を行うとともに、野生イノシシ用経口ワクチン散布を推進する。 | | | | | |
| | (1) 野生イノシシの豚熱等検査 | | | 160頭 | | |
| | (2) 野生イノシシ用経口ワクチンの散布 | | | 県内全域 | | |
| | (3) 監視伝染病発生時の緊急防疫体制の維持 プレートリーダー、マルチチャンネルピペットの整備 | | | | | |
| | 2 まん延防止対策事業 | | | 6,134千円（◎2,351千円、○3,783千円） | | |
| | (1) 空港におけるウイルス侵入防止対策 秋田空港及び大館能代空港における乗客の靴底消毒 | | | | | |
| | (2) 初動防疫備蓄資材の確保 | | | | | |
| | ①炭酸ガス容器の保管、点検 | | | | | |
| | ②初動防疫資材の追加備蓄 防寒着、体液等漏出防止剤、保冷ベスト等 | | | | | |
| | 3 予防ワクチン接種緊急対策事業 | | | 88,967千円（◎50,229千円、◎35,465千円、○3,273千円） | | |
| | 養豚場における豚熱発生予防のため、ワクチンを接種するとともに、免疫付与状況等確認検査を実施する。 | | | | | |
| | (1) ワクチン接種 | | | 716千頭 | | |
| | (2) 免疫付与状況等確認検査 | | | 1,500頭 | | |
| | リアルタイムPCR装置、低温恒温器の整備 | | | | | |
| | 4 特定家畜伝染病防疫対策事業 | | | 781,011千円（◎354,322千円、○426,689千円） | | |
| 豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病の発生に備え、防疫措置に係る体制を整備する。 | | | | | | |
| (1) 発生農場における防疫措置に係る資材、消毒及び埋却に係る経費 | | | | | | |
| (2) 制限区域内の消毒ポイント設置、運営に係る経費 | | | | | | |
| (3) 県内畜産農家の緊急消毒のための消毒薬配布 | | | | | | |
| (4) 民間の人材派遣会社への防疫作業の業務委託 | | | | | | |

| | | | | | | |
|------|--|------|---|--------------------|---------|---------|
| 事業名 | 家畜保健衛生所再編整備事業 | | | 担当 | 家畜衛生チーム | |
| 事業年度 | 令和8～13 | 事業主体 | 県 | 当初予算額 | 8,463千円 | |
| 事業目的 | 施設のバイオセーフティーレベルや機能の向上と効率的な家畜防疫体制の強化を図るため、家畜保健衛生所を再編統合するとともに、将来的な2家保体制にふさわしい庁舎や設備を整備する。 | | | 財源 | 一般 | 8,463千円 |
| | | | | 財源 | | |
| | | | | 財源 | | |
| | | | | 財源 | | |
| 実施内容 | 1 基幹家保整備事業 | | | 372千円 (○372千円) | | |
| | <p>これまでの北部・中央・南部家保の3家保体制から、北部家保と基幹家保（中央家保と南部家保を統合）の2家保体制へ再編統合するとともに、基幹家保においては、バイオセーフティーの確保された家畜伝染病の危機管理拠点にふさわしい庁舎を整備するために必要な基本計画を策定する。</p> <p>(1) 有識者会議 (3回) の開催 家畜保健衛生所の再編整備に係る基本計画の策定 再編整備スケジュールの策定 将来的な2家保体制を見込んだ北部家保解剖棟の整備方針の策定</p> <p>(2) 基幹家保建設予定地の決定 県・市有地等の候補地の調査</p> <p>(3) 先進地視察 基幹家保庁舎整備の参考とするため、東北の先進地を視察する 青森県中央家保（青森県十和田市）、福島県中央家保（福島県玉川村）</p> | | | | | |
| 実施内容 | 2 北部家保解剖棟整備事業 | | | 8,091千円 (○8,091千円) | | |
| | <p>全県域の病理解剖や家畜伝染病患畜を効率的に処理するため、現在故障中の北部家保焼却炉を修繕する。</p> <p>(1) 焼却炉耐火材修繕</p> | | | | | |

